

stories

広報かわねほんちょう



中国と日本で 古典の授業は どう違う？

川根高校と上海師範大学付属中学校が
川根高校で交流 記事はまちの話に

2010

3

No.53

本のある暮らしを

「わたしも、これから、このころのこびんをたいせつにするね。そして、じぶんのことも、とまだすのことも、かんがえていくよ」

第4回町読書感想文・画コンクール小学生低学年の部で
特選に輝いた中谷咲穂さんの感想文です

この一文を読んだだけで、心が温かくなるような気がします
子どもたちのすこやかな成長に欠かせないという「読書」
テレビや携帯電話、パソコンなど
手軽で便利な情報ツールがあふれるこの時代にあって
「読書」が必要な理由とは、その魅力とは、一体なんなのでしょう
本号では、コンクールの特選作品を紹介しながら
本の魅力について考えてみます

読書感想文特選作品紹介(抜粋)

みずいろのこびん 中谷咲穂

みずいろのこびんってなんだろう。きれいなこびんのおはなしかなあ。よんでみたら、みずいろのこびんは、くちからだせないことばやきもちをしまつておくところで、このころのなかにあるんだって、わかつたよ。

しゅじんこのようちゃんとは、ともだちのしんちゃんに「あたらしいげえむをかして」といわれて、ほんとうはいやだったのに、うんとうなずいたよ。しんちゃんに、けちなやつとおもわれたり、なかまにいられてもえなくなったりするのが、こわかつたんだね。

いやだつていえないきもちを、みずいろのこびんにいれて、ふたをしちやたよ。

おかあさんが、しごとでかえってくるのがおそくて、ようちゃんは、ひとりでごはんをたべていたよ。わたしだつたら、ひとりであらわれるかな。いつも、かぞくでたのしくたべているから、ひとりじゃさみしいな。ようちゃんは、おかあさんといっしょにごはんをたべたいってきもちを、またみずいろのこびんにしまつちやつたよ。

わたしには、みずいろのこびんってあるのかな。きつとあるとおもう。ともだちとけんかをしたときに、つかうこともあつたよ。わるぐちをいいたいよ。



小学生中学年の部 特選
山本悠矢 (中川根第一小3年)
ホームランを打ったことのない君に



小学生中学年の部 特選
笹木雅未 (中川根南部小3年)
ホネホネたんけんたい



小学生低学年の部 特選
小田健太 (中川根第一小2年)
しっぱいにかんばい



小学生低学年の部 特選
中谷咲穂 (中川根第一小1年)
みずいろのこびん



きもちになつたけれど、このころのなかのこびんに、そつとしまつたんだ。でも、ひとのこのころのなかはみえないから、このころのなかのこびんに、そつとしまつたんだ。でも、ひとのこのころのなかはみえないから、みずいろのこびんにぜんぶいれると、さいごになみだになつてでてるよ。

だから、じぶんのいいたいことを、ちゃんというといいよ。でも、ともだちのきずつくことばはいわないといいよ。いわれてきずつくようなことは、しまつておくよ。

じぶんのきもちをつたえて、ともだちのきもちをきくといいよ。わたしも、これから、このころのこびんをたいせつにするね。そして、じぶんのことも、ともだちのことも、かんがえていくよ。

ホームランを打ったことのない君に 山本悠矢

ぼくは一年生からスポーツ少年団に入つて野球をしています。さい近やつとスーパージュニアの試合に少しづつだけ出ることができるようになりました。だから、ホームランどころかヒットもまだあまり打つたことがありません。今年の夏、ぼくは高校野球を夢中になつて見ていました。それは、静岡県の常葉たちばな高校がベストエイトまでのこつたからです。もしかしたら、ゆう勝できるんじゃないかと思つてわくわくしました。さい後は負

けてしまつたけれど、庄司というせん手は県大会の決勝で二打席連続ホームランを打ちました。とてもかつこよかつたのをおぼえています。どうしたらあんなにすごいホームランを打てるようになるんだろうと思ひ、読んでみたくなりました。

主人公のルイは、試合で二アウト・三塁のぎやく転のチャンスにバットボックスに立ちました。でも力が入りすぎて、ボテボテのセカンドゴロ。けつきよく負けてしまいました。もしもぼくだつたら、おちこんじゃうよな。大きなチャンスの時に自分の打席が回つてくると、うれしい気持ちと不安な気持ちのりょう方が出てきます。だからとてもぎんちようします。ぼくも試合の時、二・三塁のチャンスだつたのにボテボテのピッチャーゴロで、とてもくやしい思いをしたことがあります。ルイはその日コンビニで仙ちゃんに会いました。仙ちゃんは交通じこで歩けるようになるかわからないほどひどいけがをしていたそうです。でも、仙ちゃんは一生けんめいリハビリをして歩けるようになりました。それだけでもすごいのに、仙ちゃんはいつかホームランを打ちたいという夢をあきらめないのがすごいと思ひました。ぼくならあきらめずにがんばれるかどうかかわからないし、野球ができなくなるなんてこわくて考えたくありません。ぼくは、家でお父さんといっしょに

野球の練習をしています。どんな強いボールでもとることができるように、キャッチの練習をしたり、すぶりの練習をしたりしています。ホームランを打つためには、まず食じやウエイトトレーニング、地道な練習を何年も続けることが必要だということを知りました。だからいきなりホームランを打つんじやなくて、少しずつ仙ちゃんのよう夢をあきらめずにがんばることが大切なんだと知りました。ぼくはまだホームランは打つたことがないけれど、初めてヒットを打つた時のことはしっかりとおぼえています。とても速い球だったけれど、ぼくの打つた球はサードを抜けていきました。とても気持ちよくてうれしくて、「もつと打ちたい。」という気持ちになりました。きつとホームランを打つたら、もつと気持ち良くなれるんだろうなと思います。ぼくもいつか場外ホームランを打つてみたいのです。そのためにもこれからの練習をがんばろうと心に決めました。

サケのふしぎにせまる 石川拓実

ぼくがこの本を読んで、すごいと思つた所は二つあります。一つ目にすごいと思つた所は、サケはふるさとの川に帰って来るといふ所です。理由は、川はこの世界にたくさんあるのに、その中の一つの川を当てるの

はかなり難しいと思うからです。ぼくがもしサケだったら、そんなことは出来ずに、逆に迷ってしまふと思います。サケは、道をまちがえずに自分のいたふるさとの川に帰ってくるので、すごいと思いました。しかしサケがふるさとの川に帰ってくるための方法がまだ分かっていないということなんです。サケがどのようにしてふるさとの川に帰ってくる方法はまだ分かっていません。ぼくはたぶん、サケの体の中に磁石のような物が入っていて、それでふるさとの川の場合が分かると思つていました。しかし、本を読んでいたら、今の考えは、サケがふるさとの川へ帰るための一番有力な方法ということが分かりました。もしこのような方法でふるさとの川に帰ることができれば、サケはすごい魚なんだなあと思つた。

二つ目にすごいと思つた所は、子どもはサケはえさでなくても、川から流れてくる物なら石でもなんでも食べるという所です。理由は、川から流れてくる物なら石でもなんでも食べるのは、少しでも生き生きしようと思つているからだと思つたからです。小さいころから一匹きで生きるのとはとても大変だということとが分かっていて、川から流れてくるものなら石でもなんでも食べるんだとぼくは思います。

それは乳製品です。いつも学校で牛乳やチーズなどが出て来る時、がまんして食べるけれど、その後に気持ち悪くなつてしまつたりするので、できれば食べたくなかったです。サケは、好ききらいもせずに川から流れてくる物なら石でもなんでも食べてしまうのです。すごいと思つた。また、子どものサケはみんなで協力をするという事です。サケはサケでもまだ子どものサケなので、一人でもなんでもするわけではありませぬ。できないならみんなで協力をします。ぼくは子どものサケなのにみんなで協力をするという事ができるので、とてもすごいと思つた。

佐賀のがばいばあちゃん 池本夢実

拝啓、がばいばあちゃん。天国でも一生懸命働いていますか？孫の昭広さんの活躍に目を細めていますか？「がばい」っていうのは佐賀の方言で「すごい」っていう意味だそうです。みんなに勇気を与えてくれるすごいばあ

ちゃん、私も勇気をもらった一人です。8才の昭広さんを預かることになつた時は、惑わなかったですか？私が4年生の時、母が入院し、おばあちゃんに面倒をみてもらったのですが、「子育てなんて忘れちゃつてから困つたねえ。」と言つていました。預かつたその日にかまどの火の焚き方を昭広さんに教えたばあちゃん。私は昭広さん

乏なんて不幸ではない。心の貧乏がいちばん不幸だ。」と綴っています。私達はお金に困つていなくても不平不満を言います。友達が持っているゲームソフトを自分が持つていないだけで損をした様な気持ちになります。物があふれている現代では心の貧しい人が増えているように思います。ばあちゃんの「世間に見栄を張るな。」という言葉にはつとさせられました。今の私達の暮らしを見たら、ばあちゃんに怒るかもしれないですね。お金や世間体よりも、自分に正直に納得のいく行動をとることが大事だつてわかりました。ありがとうございます。

ちゃん、私も勇気をもらった一人です。8才の昭広さんを預かることになつた時は、惑わなかったですか？私が4年生の時、母が入院し、おばあちゃんに面倒をみてもらったのですが、「子育てなんて忘れちゃつてから困つたねえ。」と言つていました。預かつたその日にかまどの火の焚き方を昭広さんに教えたばあちゃん。私は昭広さん

ばあちゃん、私はもう一つお礼を言いたい事があります。私は8年間空手をやっていて、その中で保育園児や小学生の指導もする立場となつています。なかなかやる気が出ない子や、うまく出来なくてふてくされてしまつたりする子が、ばあちゃんからヒントをもらいました。ばあちゃんから昭広さんの成績が悪くても「国語と社会と英語の1と理科の2を足したら5になる。人生は総合力や。」と言つて元気づけていましたね。私はそれを読んで、こんな風に言つてもらえたら劣等感を持たないで又頑張れるだろうなと思つた。その時自分の空手の指導の仕方が悪い所ばかり注意していた事に気づきました。そこで次ぎのけいこ

ばあちゃんの家はすごく貧乏だったのに、本を読んでいても「大変だな」とか「つらいだろうな」という感情が全く起こつてきませんでした。昭広さんがお腹が空いたと言えば「夢や。」と言ひ、川に棒を仕掛けて市場から流れてくる野菜をすくつたり、胸を張つてそういう事をするばあちゃんからはじめな印象が感じられないのです。大人になつた昭広さんが、「お金のない貧

の時は少しでも良くなつていく所や、その子が頑張つていてる所を見つけ、「さう、それでいいよ。」と言うようにしました。出来なくて涙ぐんでいる子には、ばあちゃんのまねをして「泣くな、笑顔でやれ。笑顔は宝じゃ！」と言つて私自身も笑つて見せました。そうしたらみんなやる気になつて、私の言う事をしっかりと聞いてくれるようになったのです。又、その子のいい所をほめていると私の気持ちも「この子きつとうまくなる」とプラス思考に変わつてくることになりました。日々のけいこの中で、うまくいかない日もあります。そんな日こそ笑顔でプラスの声をかけして行くように今は心がけています。昭広さんが野球や陸上で力を発揮できたのも、挫折をのり越えて漫才師になれたのも、いつも昭広さんの力を信じて全力で応援してくるばあちゃんのおかげがあつたからだと思います。こんなに愛情をかけてもらつて昭広さんは本当に幸せだつた事でしょうね。

ばあちゃん、中学を卒業した昭広さんが広島へ行つてしまう時には本当に「行ってしまつたね。思わず「行くな。」言つてしまつた。昭広ちゃんに私も泣いてしまいました。この前ボランティア活動でデイサービスのお年寄りのお世話をした時、一人ぐらしのお婆さんが「子供が来てるとはずみがいいよ。」言つてくれたけれど、昭広さんがいなくなつたらばあちゃんも一人ぐらし。



小学生中学年の部 特選
山の中麻由奈(中川根南小4年)
かわいそうなぞう



小学生高学年の部 特選
山下あかり(本川根小5年)
地雷ではなく花をください



小学生高学年の部 特選
石川拓実(本川根小6年)
サケのふしぎにせまる



中学生の部 特選
池本夢実(本川根中1年)
佐賀のがばいばあちゃん



中学生の部 特選
前川裕音(本川根中1年)
夢をあきらめない



中学生の部 特選
坂下もも(本川根中3年)
ラララ親善大使



高校生・一般の部 特選
松山緑里(川根高2年)
アリソン



高校生・一般の部 特選
伊藤将大(川根高2年)
宇宙の謎はどこまで解けたか



昭広さんに「めし食べ。」とか「風呂入れ。」って言う事もなくなつて淋しかったでしょうね。でも8年間ばあちゃんに暮らした昭広さんは、ばあちゃんから受け継いだ前向きで明るい心のおかげで今の自分があることにすごく感謝しています。そしてこうしてばあちゃんのことを本にしてみんなに自慢しています。お陰で私もばあちゃんに会えました。昭広さんの様に前向きに頑張るからどうぞ見守っていて下さい。

宇宙の謎はどこまで解けたか 伊藤将大

晴れた夜、空を見上げるとそこには今にも飲み込まれてしまいそうな真つ暗な空と、そこに輝く、まるでダイヤモンドをちりばめたかのような星、そして僕らを照らしてくれる月があります。僕はその光景が大好きです。

僕がこの本を読んでみようと思った理由は、その光景を作り出している宇宙をもっと知りたいと思ったからです。

宇宙には言葉では表せない程の長い歴史があり、その中で物質が無数の銀河を生み、それぞれの銀河の中では、何千億という恒星が次々と生まれては死んでいる。僕らの暮らしている地球は、四十六億年前に冷たいガスとダストの雲の中から太陽と他の惑星とともに生まれた。宇宙、銀河、星、そして僕らをつくったのはある一つの物質。

はるか遠い天体の世界に、地球とは全く別の生き物、異質の文明があるかもしれない。こんなおもしろい事に興味を持たない人がいるだろうか。この歳になると少し難しい文章でもある程度のことはわかるのでとてもおもしろかったです。

その中でも特に興味深く、感銘を受けたのが宇宙のはじまりの話と地球外生命体の可能性の話でした。

かつて宇宙のはじまりは「火の玉宇宙」と呼ばれる状態で、膨張するにつれて温度が下がると、それまで物質と反物質の対発生、対消滅をくり返してきた火の玉宇宙が、対発生反応を起こすエネルギーを失う。そこで全ての粒子と反粒子がぶつかり合い光になると、もう新しい対発生が起きなくなる。しかし、物質が反物質よりもごくわずかだけ多かったとすると、余分の物質は対消滅の相手がいままま生き残る。それが今、宇宙を作っている物質ということになる。というものです。

僕はこれを知った時ものすごく感動しました。もはや神のいたずらとしか言いようがない。それがなかったら全ての今はない。やっばりすごいと思います。そして、それを発見した人間も偉大だなあと思います。

もう一つは地球外生命体の可能性の話です。どこか遠い遠い星に、僕らと同じような形をした生物、もしくは、想像もつかないような形をした高度な

出品された感想文はすべて2回ずつ目を通しました。本によって内容やテーマが違うため、審査は苦勞しましたね。それぞれの感想文によく個性が出ていて、よく読み込んだと思われる作品が上位になりました。ただし語句や漢字の間違いには、もう少し注意が必要ですね。

感想文高校生・一般の部審査員

佐藤 四郎 さん(小長井)



のがたのしみです。しかも、これは太陽系内の話で、銀河系の中に100億の惑星があってもおかしくはなく、数多くの生命が満ちている。その可能性は高いらしいです。その観測は難しいが、将来的には不可能ではないみたいなので、僕が生きているうちに地球外生物の存在が確認されてほしいなあと思います。

宇宙は本当におもしろいなあと本を読んで感じました。本の中に書かれている科学的な事だけでなく、たくさん目撃情報などがある宇宙人やUFOの存在などとても興味深いです。信憑性は低いかもしれませんが、NASAは宇宙人と接触している。2012年にフォトンベルトが接近して地球が電子レンジの中みたいな状態になる。未来から来た男。などもすごくおもしろいと思います。

僕らがこうして生きていられるのも宇宙があるからといつても過言ではないと思います。長い授業も宇宙の歴史から言えばほんの瞬きにも満たないこととで、人間は本当に小さい存在だと思います。それでも奇跡によって生まれた地球、その中で奇跡によって生まれた僕らもつとその事を大切に、一日一日を生きていかなければと感じました。

※各感想文は、各部門1作品ずつ、それぞれ原文のまま掲載しています。

読書感想画特選作品紹介

小学生低学年の部 特選



春田彩葉 本川根小1年

【シンデレラ】

小学生低学年の部 特選



藤田亜由美 中央小1年

【どうして?】

小学生中学年の部 特選



横山祐大 中川根第一小3年

【ジュン先生がやってきた】

小学生中学年の部 特選



服部央河 本川根小4年

【そいつのなまえはエメラルド】

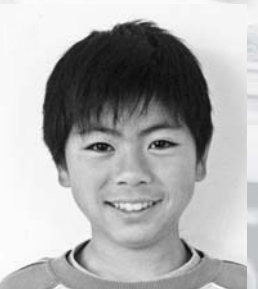
小学生高学年の部 特選



中村大成 中川根第一小6年

【火の雨がふる】

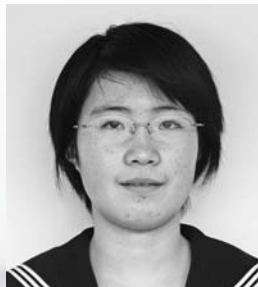
小学生高学年の部 特選



小林竜也 中川根南部小6年

【ファーブル昆虫記】

中学生の部 特選



榎田真季 本川根中3年

【365日の月】

読書のススメ

子どもたちにはブックステップ事業や読み聞かせ活動
大人には町営の図書室とやまびこ号
町には、読書に親しむ土壌がある
町営の図書室の貸し出し数は近年、減少の一途をたどっていたが
昨年から今年にかけて、増加に転じた
「読書の楽しさ」は今、着実に町に広がりつつある



読書の楽しさを 知ってほしいから

活字離れや読書離れが叫ばれる現代。
子どもたちに本の魅力を知って欲しい
と町教育委員会では毎年「ブックス
テップ事業」を実施している。

ブックステップ事業とは、町教委が
選定した4種類の本の中から、子ども
が選んだ1冊をプレゼントするという
もの。昨年までの小学1年生・中学2
年生に加え、本年度からは小学4年生
も対象となった。

小学1年生には「おしいれのぼうけ
ん」「あらしのよるに」などから1冊、
小学4年生には「おおかみ王ロボ」「ね
このしじみ」などから1冊、中学2年
生には、「坊ちゃん」「14歳からの哲学」
「十二番目の天使」などから1冊が子

どもたちにプレゼントされた。

本を受け取った子どもたちは、本当
にうれしそうな顔を浮かべ、互いの本
を見比べながら会話を弾んでいた。

小さなころからたくさん本の本と出会
い、本に触れることで、豊かな心をは
ぐくんでほしいという願いが込められ
ている。

町内の図書環境を 考えてみる

子どもたちは普段から学校の授業や
図書室、ブックステップ事業などで、
本と触れ合う機会がたくさんある。で
は大人のわたしたちはどうだろうか。
忙しい毎日の中で、読書する習慣とい
うのはなかなか根付かないものかもし
れない。「新聞や雑誌なら目を通す機
会が多いけど…」「読みたいけれど、な

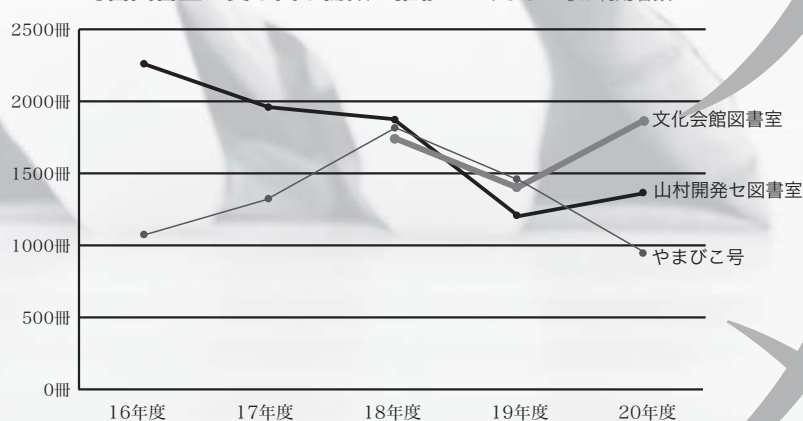
かなか買いに行く時間がないから…」
という人も多いことだろう。

そんなとき利用して欲しいのが町営
の図書室。小説や児童書、実用書から
町の歴史書まで、大人も子どもも楽し
める本が多数揃っている。調べものにも
最適だ。移動図書館やまびこ号は、
昨年11月に車両をリニューアル。さら
に使いやすく、さらに充実した蔵書を
乗せて町内を巡回中。図書室まで行く
のが大変な人は、ぜひやまびこ号を利用
して欲しい。

文化会館図書室では、18、19年度と
本の貸し出し数が減少傾向にあった。
が、20年度では1868冊と大幅な増
加に転じている。文化会館職員に聞く
と「昨年度は主に8月～10月の貸し出
しが大幅に増えました。夏休み中に本
を読む子どもや絵本を読んでも聞かせる
親御さんが増えたようです」と話して
いた。山村開発センター図書室でも、
19年度1212冊から20年度1376
冊と、増加の傾向を見せ始めている。
反面、やまびこ号の利用者は減少傾向
にある。理由は定かではないが、運行
が平日のみというのが影響しているの
かもしれない。

本町には、他市町のような大きな図
書館はないが、それでも3カ所の図書
室（館）では毎月新刊書などを入荷し、

町営図書室の貸し出し冊数の推移 ※やまびこ号は利用者数



読書に親しむ土壌

町で実施するブックステップ事業や
ブックスタート事業、家庭教育学級で
進める「親子で取り組む読書活動（生
涯学習のひろばに掲載）」、子育て支援
施設や各学校で取り組む読み聞かせ活
動など、本町には、子どものうちから
読書に親しむ土壌がある。
読書離れが叫ばれる現代だが、「読書
に親しむ心」は、この地に着実に根を
張り、芽を出し始めている。

子育て支援施設専門員に聞く「読み聞かせ」の効果

読み聞かせを通して、 子どもたちの「想像の世界」を広げてあげたい

子育て支援施設では、誕生日会など
のイベントに併せ、参加した親子を対
象に、本の「読み聞かせ」を実施して
います。いつも読み聞かせを始めると、
1歳に満たない小さな赤ちゃんが、目
をキラキラさせ、夢中になってこっち
を見ていますよ。読んでいるわた
しの方が驚くほどです。内容は全然分
からなくても、ちゃんと興味を示して
いるんですね。

小さいうちから、読み聞かせを通し
て本と触れ合うことはとても大切なこ

と。本の内容すべてを理解できないと
しても、読み手の声のトーンとか絵本
の色や絵柄を見ることで、想像力がか
き立てられるんだと思います。
「読み手と子どもたちとの距離感」。そ
んなものまで含めて、すべてが幼児教
育につながっているんでしょう。

とある高校では、野球部などの部活
に、イメージトレーニングの一環とし
て読み聞かせを採り入れているという
話を聞いたことがあります。読み聞か
せによって、心を落ち着かせるこ
とや集中することなど、精神面も
鍛えられるからではないでしょ
うか。

そこまで大きさに考えなくて
もいいですが、子どもたちには、
純粋にお話の世界を楽しんでも
らえたらと思います。読みきか
せを通して本と親しむことは、す
こやかな人間形成に役立つと同
時に、親子のぎずなを深めること
にもつながります。

読み聞かせを体験した子ども
たちが、本に興味を持ち、物語世
界の広がりを感じてくれたらと
思っています。

子育て支援施設 専門員 **駒井宗子**さん（瀬平）

子育て支援施設 ☎ (57) 2231



週3回町内を巡っています 移動図書館やまびこ号

昨年11月26日に納入された新
しいやまびこ号。車両後部には
車いす乗降用のリフトが付き、
以前の車両よりも通路スペース
が広くとられ、利用者が使いや
すいような仕様となっています。
図書カードに記入するだけで本
を借りられます。原則週3回、
町内を巡っていますので、皆さ
んご利用ください。
文化会館 ☎ (59) 3106



図書ネットで蔵書を管理 山村開発センター図書室

役場本庁舎横の建物「山村開
発センター」1階にある図書室。
一般書から児童書、紙芝居など
幅広く取りそろえています。利用
方法は山村開発センター管理
人に一声かけ、図書貸し出し
カードに記入するだけ。町民の
皆さんのみ利用できます。定員
10人。
山村開発センター 上長尾627
☎ (56) 2231



蔵書1万冊。町最大の図書室 文化会館図書室

文化会館の2階にある図書室。
収納する蔵書は約1万冊を数え、
一般書から児童書まで取りそろ
えています。利用方法は文化会
館職員に一声かけ、図書室内に
ある貸し出し簿に記入するだけ。
町民の皆さんのみ利用できます。
定員35人。
文化会館 東藤川909-1
☎ (59) 3106

ごんぎつねとは

新美南吉作の児童文学。初出は「赤い鳥」1932年1月号。作者の死の直後に刊行された童話集『花のき村と盗人たち』に収載された。新美南吉の出身地である愛知県知多郡半田町（現在の愛知県半田市）岩滑地区の矢勝川や権現山を舞台に書かれたといわれている。「城」や「お殿様」、「お歯黒」という言葉が出てくることから、江戸時代から明治にかけての物語と考えられている。



あらすじ

両親のいない小狐のごんは、村へ出てきてはいたずらばかりして村人を困らせていた。ある日ごんは、村人の兵十が川で魚を捕っているのを見つけ、兵十が捕った魚やウナギを逃すといういたずらをしてしまう。

それから10日ほどあと、兵十の母親の葬列を見たごんは、あのとき逃がしたウナギが、兵十が病気の母親のために用意したものだと悟り、後悔する。母を失った兵十に同情したごんは、ウナギを逃がしたつぐないとして、いわしを盗んで兵十の家に投げ込んだ。翌日、いわし泥棒と間違われた兵十はいわし屋に殴られていた。それを知ったごんは、自分の力で償いをしなければ

ばと思い直し、山から栗や松茸を運び兵十の家へ届けた。しかし兵十は、毎日届く栗や松茸が誰のしわざか分からず、加助の助言で神様のおかげと思いつく。それを聞いたごんは、たまらなく寂しい気持ちになってしまう。

その翌日兵十は、ごんが忍び込んだ気配に気づく。そして、またいたずらに来たと思いつく。兵十は母親にウナギを食べさせられなかった復讐心から、ごんを火縄銃で撃ってしまう。

ごんのそばに駆け寄ると、土間に栗がまどめて置いてあった。そこで初めて、栗や松茸は、ごんが運んでくれたと気づく兵十。

「ごん、おまえだったのか。いつも、栗をくれたのは」と問いかける兵十に、ごんは目を閉じたままうなずき返す。悲しみに暮れる兵十は、手に持っていた火縄銃を床に落としてしまう。



上保節子さんの指導に真剣に耳を傾ける子どもたち。でもみんな、どこか楽しげだ。

大切なのは、登場人物になりきって演じること
そのためには物語を良く読み、その世界にひたること
セリフ一つにも、物語を楽しんだ気持ちが表れる

上保さんは幼少時代、ここ川根本町の藤川地区で育った。そのころ観た劇団たんぼぼの劇が強く心に残っていると語る。「小学生のころ、劇団たんぼぼが公演に来ると聞いては、見に行っていました。15円を握りしめ、万世橋を渡って、友人と一緒に徳山まで通いました。そのころ見た演劇に感動し、今のわたしがあります。現在は劇団の代

物語に親しむ心を育てたい

この間にも、上保さんの熱心な演劇指導が続いている。上保さんは、子どもたちの思いが、どうやったら観客に伝わるのか、プロの技術をあますこととなく子どもたちに伝え、教えていた。ときには「この場面は、どうやったらいいと思う？みんな考えてみよう」と子どもたちに言葉をかけ、児童の自主性を育てることも大切にしていた。「常に自分たちで考え、工夫することを忘れてはいけません。セリフの強弱一つとっても、観客への伝わり方は変わります。どうやったら伝わる演技ができるのか。そのためには、自分なりに物語世界を想像し、考えることが大切なんです。いろいろ試すことで、本当に言いたい部分が見えてくる。伝わる言葉になる。それを繰り返すことで、物語への理解が、より一層深まっていくんだと思います。」



劇団たんぼぼ代表 上保節子さん（浜松市）

表として、団のスケジュール管理や事務方・裏方全般をこなしながら、こうした演劇指導の仕事をしています。子どもたちの良い面を育ててあげたい。演劇を通して物語の世界の楽しさを味わって欲しいと話す上保さんが、指導をする際、一番気を付けているのが「楽しむ」ことだ。「登場人物を演じる上で一番大事なのは『物語を読み取る力がどれだけあるか』ということ。つまり、その物語に、自分がどれだけ入り込み、楽しみ、登場人物の姿を自分なりに想像・創造できるかということ。この子どもたちはとっても素直。指導をすんなり受け入れてくれます。教わりたい、楽しみたいという心がちゃんと備わっている証拠だと思います。」

劇の練習は続いている。子どもたち一人一人が登場人物になりきり、「ごんぎつね」の世界に没頭していた。

演じることで深まる「物語」への理解

名作「ごんぎつね」を劇で
中川根第一小4年生が挑戦

「とてもいい声が出るよ。あとは体育館の後ろの人にも聞こえるよう、もっと大きな声で話してみよう。」

上保節子さんの声が飛ぶ、1月29日の中川根第一小体育館。2月6日のなかよしの森発表会に向けて、各学年、劇の練習が佳境を迎えていた。

練習に立ち会っていた松本晴巳校長に話を聞いた。「発表会に向け、プロの人から学ぼうと、文科省の芸術家派遣事業を利用し、上保さんに来ていただきました。劇団たんぼぼの団員として

長く舞台に立った上保さんから、演劇のノウハウや役作りする上での心構えなどを教わっています。4年生は、教科書に登場する児童文学の名作『ごんぎつね』を上演します。登場するぎつねの動作やセリフ一つ一つでも工夫する余地があり、本の世界を想像する上で大切なことを学ばせてもらっています。今回上保さんには、1年生から6年生まで、すべての学年の指導をしていただきました。プロの視点、意識の深さに触れ、『人に思いを伝えることの大切さ』を知ることができたのではないかと思います。ぜひ来年以降も続けていきたいと考えています。」

中川根第一小4年生8人は2月6日の学習発表会で児童文学の名作「ごんぎつね」の劇に挑戦。上演にあたり、プロから必要な知識や技術、心構えなどを学ぼうと、劇団たんぼぼの上保節子代表の指導を受けた。観客に伝わる演劇とはどういったものか。上保さんは、「役になりきること。どれだけ物語に入り込めるかが大切」と説いた



今年のブックステップ事業では小学1、4年生と中学2年生に本が贈られた。みんなお気に入りの本を抱えてにっこり。

バス 三じ十五分
クラブ 三じ五分

「想像力」が

「創造力」を はぐくむんだ



読書の魅力

想像する世界から 創造する世界へ



本年度の読書感想文・画コンクールの審査会は1月15日、山村開発センターで実施された。各部門別に分かれた審査員たちは、作品の表現力や読解力、独自性などについて厳正に審査した。

入賞した作品に限らず、どの作品も、新しい世界と出会えた喜びにあふれ、現実世界では味わえない驚きに心を躍らせていた。読書感想文・画とは決して「感想」だけを表現するものではない。次の文を読んでみて欲しい。山本悠矢くんの感想文「ホームランを打ったことのない君を読んで」から。

「ぼくはまだホームランは打ったことがないけれど、初めてヒットを打った時のことはしっかりと覚えてます。とても気持ちよくてうれしくて『もっと打ちたい』という気持ちになりました。きつとホームランを打ったら、もっと気持ち良くなれるんだらうなと思います。ぼくもいつか場外ホームランを打ってみたいです。そのためにもこれからの練習をがんばらうと心に決めました」。

練習に打ち込む悠矢くんの姿がそこに見えるかのような文面に、思わず心が温かくなる。「野球が大好き」という素直な気持ちがかげに伝わってくるようだ。

主人公と自分自身との境遇を照らし合わせ、この本に心を動かされ、勇気をもらい、

夢を描き、それに向けて努力する悠矢くんの姿が生き生きと書かれている。本の世界に思いを馳せながら、自らの明日を創造している。読書が読者の「心の成長」を促している好例と言えるだろう。

よい本との出会いは よき友との出会いにも似て

本を開けば、外国へも宇宙へも旅立てる。ときには言葉を話す昆虫の世界にだって飛び込んでいける。

「このページの先には、何が待っているんだろう」。そんな想像はいくらでも、それを無限に広がっていく。

視覚や聴覚に頼らず、脳の中で心の中で、世界を描き、人物像を描く。この「想像力」こそがテレビやインターネットでは真似のできない「読書の魅力」ではないだろうか。情報を得るだけなら、デジタルメディアには到底かなわない。テレビ番組を見たり、携帯を使ったり、パソコンで検索する方が簡単だし便利なのは確かだ。だが本は、情報を得るためだけに存在するわけではない。想像することで無限に広がる世界。演劇も、感想文も、絵を描くことだって、すべて創造力をはぐくむことにつながっている。

ある人に聞いた言葉が印象に残っている。「わたしにとっての本は、知識を与えてくれるものであり、新しい世界を広げてくれるものであり、心温まる親しい友人のようなものである」。

ページの向こうに、たくさんの友達がいる。さあ、本の世界に踏み込もう。すてきな友達に会いにいこう。

学校教育の分野で顕著な成果

山下富士夫さんが優秀教員表彰

学校教育の分野で顕著な成果を上げた人に贈られる文部科学大臣優秀教員表彰。本年度の表彰者に本川根中学校の山下富士夫教諭が選ばれました。受賞の要因を山下先生に尋ねると「総合的な学習の時間で作成したポスターが全国1位に選ばれたのを始めとして、きれいな学校づくりが評価された『あすなる賞』の受賞、総合的な学習発表会で県知事賞を受賞するなど、さまざまな取り組みが総合的に評価されたのではないかと



と思います。こんな大きな賞をいただくのは初めてのことで、から本当にありがたい。でも、自分ももらっていいのかわからない感じがします。」とはにかみながら話す山下先生。

「生徒たちには、この自然豊かな地域のことをよく知ってほしいと思います。授業や総合学習など、地道な学びの中で地域に触れ、その良さを実感できるような授業をしていきたい。今後とも努力していきます」と賞状を手に、笑顔で話してくれました。

男女共同参画講座は1月26日、川根高校で開かれ、同校3年生が受講しました。同校初となるこの講座。ファ



職業に「男女の区別」なんてない

男女共同参画の理解深める講座

シリテーターズ静岡の杉山恵子代表による「自分らしく生きる」と題した講演では、杉山さんが自身の職業を紹介しながら「職業に男女の区別はない」と説明しました。ワークショップでは、ファシリテーターズ静岡の村松謙一氏と鈴木美津子氏が進行役となり、それぞれのクラスで男女共同参画について討論。生徒の視点から見た男女共同参画について、さかんに意見が飛び交っていました。

企画課 ☎ (56) 2221

「ふるさと納税」は、住民税などの一部を応援したい市町村に寄付し、そのまちの財政を支援する制度。実際に暮らしていた古里はもちろん、訪れたことのない市町村にも納税(寄付)できます。次にご紹介する皆さんは、本年度12月から1月にかけて、

川根本町の応援団を募集中です

「ふるさと納税」をご存じですか

本町にふるさと納税によりご寄付くださった皆さんです。ありがとうございます。

藤枝市 竹内俊明 様
藤枝市 諸田芳紀 様

※氏名の公表を了承してください。金額の公表は控えさせていただきます。

企画課 ☎ (56) 2221

企画課 ☎ (56) 2221

本町全域「地デジ化」が進んでいます
中川根徳山局の本放送開始です

2月8日から開始された中川根徳山局の地デジ試験放送。3月1日から本放送となります。
※試験放送とは、本放送開始まで試験的に放送する期間のことですが、放送内容は本放送とまったく変わりません。本放送同様、地上デジタルテレビ放送6局(NHK総合、NHK教育、SBS、SUT、SATV、SDT)の電波を発射します。なお、調整の必要がある場合には、電波が途絶えたり、不安定になることがあります。

地上デジタルテレビ
放送中継局の建設場所

現在、ご家庭で使用しているUHFアンテナの方向を変える手間がからないよう、アナログ中継局の隣にデジタル中継局を建設します。

- 1 中川根局 (下長尾)
アナログUHF中継局の隣
- 2 本川根局
アナログUHF中継局の隣
- 3 中川根徳山局
アナログUHF中継局の隣

各中継局のデジタル
放送のチャンネル

- 1 中川根局 (下長尾)
NHK総合52ch、NHK教育45ch、SBS24ch、SUT35ch、SATV33ch、SDT31ch
- 2 本川根局
NHK総合41ch、NHK教育37ch、SBS48ch、SUT43ch、SATV39ch、SDT47ch
- 3 中川根徳山局
NHK総合16ch、NHK教育14ch、SBS30ch、SUT26ch、SATV27ch、SDT29ch

地デジ化の準備を
進めましょう

地上デジタル放送を視聴するためには、地上デジタルテレビを購入するか、地上デジタルチューナーまたは地上デジタルチューナー内蔵録画機器を購入する必要があります。

「地デジ」についてよくわからないときは、次までお問い合わせください。

地デジコールセンター
☎ 0570 (07) 0101

※テレビの設置やアンテナについては、テレビなど購入した販売店でもご相談できます。

奥大井煙火保存会より

「手筒花火の会員」を募集しています

奥大井煙火保存会は現在会員15人。各地区の祭りや町外に出向いてのイベントで手筒花火を打ち上げています。打ち上げるだけでなく、手筒花火を実際に手作りもします。今年は煙火保存会の5周年を迎える節目の年。新規会員を募集しています。火の粉を恐れない、気合いの入った人を募集しますので、興味がある人は、ぜひお問い合わせを。もちろん女性の方も大歓迎です。 ※4月3日 静岡祭り参加予定

会員に求められること

1 活動に積極的に参加していただける人

手筒花火打ち上げ、手筒花火の作製、講習会への参加など。

2 20歳以上の人

手筒花火は危険が伴うため。保険は加入しますが、ケガ・やけどなどは自己責任です。



【問】千澤誠也
☎ 090 (2680) 3992
FAX (59) 2711
e-mail: jeep37-vw1302@docomo.ne.jp



英語などを交え、楽しそうに交流する生徒たち

国境を越え生徒同士が交流 川根高校に上海師範大学附属中が訪問

以前、東海大翔洋高校で実施されていた中国の上海師範大学附属中学校（以下上海中学校）との交流事業。自然の豊かな地域にぜひ訪問したいという同校の希望により、川根高校に打診があったのが昨年冬のことで、川根高校側でも「ぜひに」と受け入れを快諾。このほど、国境を越えた交流が実現しました。

「川根高校では以前、修学旅行で台湾の高校を訪問しました。その際、現地の高校生に熱烈な歓迎を受け、感動したんです。本校での受け入れは初の試みですが『来て良かった』と思ってもらえるよう、精一杯もてなしたいと考えています」と、河原崎校長、林副校長は口を揃えて話しました。

今回来校したのは上海中学校

の14歳から17歳の生徒38人。5日、静岡空港に降り立った生徒たちは、大井川鐵道臨時SL列車と観光バスを乗り継ぎ、川根高校を訪問しました。

川高体育館で開催された歓迎会では、川高1、2年生が上海中学校生徒を拍手で出迎え、互いに英語で「歓迎の言葉」「お礼の言葉」を述べ合いました。

6日は、上海中学校生徒が川高生徒と一緒に古典や簿記などの授業を体験。その後、体育の授業にも参加し、一緒に学びの場やレクリエーションなどを楽しみました。

今回の学校交流について、上海中学校生徒に尋ねると「日本の高校の授業を受けられるとは思っていませんでした。とても楽しい時間を過ごせた」「特別な体験ができた。すごく

川高生徒会長が歓迎の言葉



一緒に体育を楽しんだ



いいことだと思う」と話していました。川高生徒も「授業などの交流を通して打ち解けることができ、楽しかった」と話すなど、充実した2日間を過ごしました。

この町に起こった
新鮮な「ネタ」を皆さんの元へ。
この次に登場するのは
あなたかも!?

自然薯の準備が着々と進む

農林業センターで今年も自然薯栽培が

農林業センター（地名）では、今年も自然薯の栽培が始まりました。2月中旬、幅10センチ、長さ1メートルの波板を、赤土と共に埋める作業をしています。この波板は、1本の通りに130枚、計36通りを畑2枚に埋め込むという途方もない作業。3月上旬ごろからむかごを植え付け、種いもになるのが今年の秋。本いもの収穫は翌年の秋です。優良品種の継続栽培と、農家への優良苗の販売を目的として、今日も作業は続いています。



2年越しの自然薯栽培。どんな手ができるか楽しみみです

林業施業の効率化を目指し

森林組合おおいがわでプロセッサ導入

森林組合おおいがわでは「プロセッサ（造材機械）」を導入しました。同組合では、「農山漁村活性化プロジェクト支援交付金」を活用し、林業の低コスト化を目指した高性能林業機械による新しい施業に取り組みます。崎平地区、奥泉地区、東藤川地区では、まとまったエリアで間伐や木材生産をしていく事業（集約化、団地化）を検討するなど、積極的な林業が展開され始めています。



導入されたプロセッサ。施業効率化が図られます

静岡県無形民俗文化財指定の梅津神楽は1月16日、接叺峡温泉会館で奉納されました。

梅津神楽は、こだま石神社、若宮神社に550年前から伝わる神事。1972（昭和47）年に静岡県無形民俗文化財の指定を受け、毎年1月の第3週土曜日に梅津神楽保存会によって奉納されています。

当日は、佐藤公敏町長が舞う「幣の舞」で幕を開けました。大学時代から神楽保存会に携わっている佐藤町長。優雅な舞が、会場を沸かせました。

このあと深夜1時過ぎまで16の舞が披露され、地域の安全や五穀豊穰を祈願しながら奉納されました。

梅津神楽は、舞い手と笛、太鼓、観客が一体となって演じられ、ほかの神楽にはない魅力があるといわれています。毎年、町外から梅津神楽を目当てに訪れる常連客も多く、会場につめかけた観客たちは、優雅な舞を堪能し、大きな拍手を送っていました。

伝統を受け継ぐ優雅な舞を

接叺峡温泉会館で梅津神楽奉納1・16



「八幡の舞」を堪能する観客たち

Topics

川根本町の まちの話題

第4回町民読書感想文・画コンクール
入賞者一覧 (敬称略)

部門	結果	氏名	校名・学年
小学生低学年	特選	中谷 咲穂	中川根第一小1年
	特選	小田 健太	中川根第一小2年
	入選	下村 優奈	中川根南小1年
	入選	泉谷 楓	本川根小1年
	入選	小坂 海結	中央小2年
小学生中学年	特選	小田 切七海	中川根第一小2年
	特選	笹本 雅朱	中川根南小3年
	特選	山本 悠矢	中川根第一小3年
	特選	山中 麻由	中川根南小4年
	特選	山筒 井瑠音	中川根南小3年
小学生高学年	特選	西村 柚希	中川根南小3年
	特選	小澤 飛来	中川根第一小3年
	特選	清水 倫佳	本川根小3年
	特選	三倉 怡都	中川根南小4年
	特選	堀井 圭都	本川根小4年
中学生	特選	山野 柊太	本川根小4年
	特選	山下 拓実	本川根小5年
	特選	石川 久実	本川根小6年
	特選	蘭田 大翔	中央小5年
	特選	中村 大翔	中川根第一小5年
高校生	特選	松山 下奈	本川根小5年
	特選	山下 菜里	中川根第一小6年
	特選	山渡 邊一貴	中川根第一小6年
	特選	長嶋 芳美	本川根小6年
	特選	池本 夢実	本川根中1年
一般	特選	前川 裕音	本川根中1年
	特選	坂下 隆弥	本川根中3年
	特選	森 隆弥	中川根中1年
	特選	佐藤 翔太	中川根中2年
	特選	松永 真夢	中川根中2年
一般	特選	片川 夏実	中川根中2年
	特選	河野 紗江	中川根中2年
	特選	武村 岳	本川根中2年
	特選	竹本 遥	中川根中3年
	特選	濱谷 豪	中川根中3年
一般	特選	松本 菜都子	中川根中3年
	特選	坂下 奈々	中川根中3年
	特選	原 絵勢	中川根中3年
	特選	池本 太里	本川根中3年
	特選	松山 緑	川根高校2年
一般	特選	伊藤 乃由	川根高校1年
	特選	根岸 由花	川根高校2年
	特選	大石 野々	川根高校2年
	特選	川本 麗智	川根高校2年
	特選	大鈴 木僚	川根高校2年



生涯学習の成果を発表し合う「生涯学習のつどい」は2月14日、文化会館で開催されました。

基調講演では遠州横須賀倶楽部の鈴木武史さんが地元で展開しているユニークなまちづくりについて講演。次いで、読書感想文・画コンクールの表彰式、生涯学習活動の取り組みや成果の発表がなされました。つどいの進行役には、川根高校の波多野夢希さんと高木理帆さんが活躍してくれました。主な内容は次のとおり。

- ・基調講演「遠州横須賀流まちづくり」
- ・町民読書感想文・感想画コンクール表彰式
- ・教育委員会事業紹介
- ・ふるさと発見団報告(千澤佑太さん、坂下祐斗さん)
- ・小学生県外体験学習報告(中央小5年生)
- ・生涯学習事業報告「小長井・平栗・洗富小幡区」(筑地秀昭さん、坂本光代さん、内沼良春さん、中澤太郎さん)
- ・生涯学習講座「太極拳」発表(受講生)

1年間の成果を発表し合う
生涯学習のつどいを開催しました

部門	結果	氏名	校名・学年
小学生低学年	特選	春田 彩葉	本川根小1年
	特選	藤田 由夢	中央小1年
	特選	松葉 来夢	本川根小1年
	特選	太田 ない	中央小1年
	特選	澤本 太河	中央小2年
小学生中学年	特選	坂下 聖香	中川根南小2年
	特選	横山 祐大	中川根第一小3年
	特選	服部 央河	本川根小4年
	特選	松葉 芽生	本川根小3年
	特選	藤田 匠	中川根南小3年
小学生高学年	特選	山本 夏波	本川根小4年
	特選	三倉 怡成	中川根南小4年
	特選	小林 竜也	中川根南小6年
	特選	石原 詩美	本川根小5年
	特選	小池 莉子	本川根小5年
中学生	特選	蘭田 久実	中央小5年
	特選	田田 輝奈	中央小5年
	特選	大庭 佑里	本川根小6年
	特選	榎田 真季	本川根中3年
	特選	氣田 有紗	中川根中1年

今月の予定

- 7日回 生涯学習スポーツのつどい
 - ・お茶の里ファミリーマラソン
 - ・川根本町スティックゴルフ大会
- 7日回 かわねほんちょうスポーツクラブ⑱
- 13日回 かわねほんちょうスポーツクラブ⑳
- 28日回 第17回スプリングコンサート
 - 午後2時開演 入場無料(文化会館)

今月の町民ギャラリー展示

- ・地域で取り組む生涯学習展
- ・生涯学習講座

今月の文化会館ロビー展示

- ・国文祭特集

今月の行事

家庭教育の向上を目指した学習活動を進める家庭教育学級の合同研修会・閉講式は1月31日、文化会館で開かれました。本年度の家庭教育学級では、「親子で取り組む読書活動」を共通の活動とし、家庭での読書習慣の定着を目指して活動しました。

各家庭教育学級の運営委員長がそれぞれの活動内容を報告。その後、中中家庭教育学級生の皆さんが親子で取り組んだ活動を報告したり、トーンチャイムで名曲「ふるさと」を披露したりと、活動への積極的な参加と学級生のきずなを感じさせる発表がなされました。

また、大型絵本「十二支の始まり」の読み聞かせでは、お話どぐりの皆さんが情感たっぷりに読み、参加者は、しばし本の世界にひたりました。



上 大型絵本の読みきかせ 下 トーンチャイム演奏

本町生涯学習推進協議会第3回研修会は2月4日、山村開発センターで開かれました。大勢の推進委員が参加したこの研修会では、1年間地区で実施してきた生涯学習の活動報告や先進地視察研修の報告、それぞれの地区の取り組みについて意見交換がなされ、本年度の充実した活動



内容を振り返りました。町内各地区で、それぞれの地域の長を生かしながら、地域に根差した取り組みが着実に進められていることが伝わる研修会でした。主な内容は次のとおり。

- 1 先進地視察研修の報告
志町河内地区推進員
- 2 田代・柳三、久野脇の活動報告
3地区推進員
- 3 各地区が参加しての情報交換会

なお、生涯学習の1年間の取り組みをまとめた「地域で取り組む生涯学習広報誌」を後日、各家庭に配布する予定です。

親子のふれあいが深まりました
親子で取り組む読書活動・合同研修会を開催

地区の取り組みについて意見交換など
生涯学習推進協議会・第3回研修会

教育委員会生涯学習課 ☎(58)7080

生涯学習のひろば



今、町内で一番危険なカーブ。スピードを落として思いやり運転を励行しましょう。

緊急事態発生時、ご一報ください。
当社レスキュー隊が即出動いたします。

川根自動車株式会社

川根本町上長尾 869-2 TEL: 0547 (56) 0150

農作業時期「使おうと思ったのに使えない。今日しか休めないのに…」
なんてことにならないように、試運転(3分程度)はお早めに!

※「刃研ぎ2割引き」は、2月28日お預かり分までです。ご予約のある方はお早めにお願ひします。

農機具の購入・修理・改造など、お気軽にご相談ください。地域のお店だからこそ、ていねいに分かりやすく、迅速に対応いたします!

前田機材

川根本町上長尾795-1
I P電話 ☎050-3363-2252
☎56-0006 ☎56-0009

筋ジストロフィー症及び類似症児(者)療育相談

県筋ジス協会・県中央身体障害者更生相談所
日時 3月14日(日) 午後1時～
場所 藤枝市生涯学習センター
 藤枝市茶町1-5-5 ☎054 (646) 3211
第1部 講演会 午後1時25分～
①筋ジストロフィーについて 静岡てんかん・神経医療センター統括診療部長溝口功一医師
②姿勢と呼吸、姿勢と嚥下 鈴鹿病院白石弘樹理学療法士
第2部 個別相談会 午後3時40分～
 ※事前の申込みが必要。相談は無料。
 (相談内容:診察、緊急時対応、リハビリ、栄養、生活上・福祉相談など)
申込期限 3月8日(日)
【問・申】静岡県筋ジストロフィー協会 ☎・FAX0558 (83) 3981
 静岡県子ども家庭相談センター ☎054 (286) 9229 FAX054 (286) 9185
 ※申込み用紙は本庁福祉課・総合支所福祉介護室にあります。気軽にお問い合わせください。

自衛隊幹部候補生など採用試験を実施します

自衛隊藤枝地域事務所
【自衛隊幹部候補生】 一般大学の文系及び理工系から進む通常の幹部候補生コース。海上・航空自衛隊の飛行要員(パイロット)および陸上・航空の技術要員が含まれます。
【歯科・薬剤科幹部候補生】 大学の歯学科・薬剤科から進むコースとして自衛官の衛生分野(病院勤務など)の歯科医官・薬剤官となる幹部候補生コース。
両コース応募資格 22歳以上26歳未満で大学卒業程度の学力を有する者(平成22年4月1日現在)
両コース1次試験 5月15日(土)、16日(日)
【一般曹候補生】 選考により曹に昇任し、幹部への道も開かれるコース。
応募資格 18歳以上27歳未満の者
1次試験 5月22日(土)
各コース共通受付期間 4月1日(日)～5月10日(日)
 ※くわしくは藤枝地域事務所へ。またホームページ「静岡地本」で検索して

ください。随時、各コースの説明会を実施しています。気軽にご参加ください。
【問・申】自衛隊藤枝地域事務所 ☎054 (643) 6391
<http://www.mod.go.jp/pco/sizuoka/>

不動産に関する無料相談 4月2日(金)に実施します

県不動産鑑定士協会
 地価公示、地価調査をはじめ、不動産の鑑定評価制度を広く知っていただくため、不動産鑑定士による無料相談会を開催します。相談は無料です。気

今月の納期

◆国民健康保険税・第9期分
 ◆水道使用料・第6期分
 納期限は3月31日です。口座振替の人は3月31日に引き落とされます。残高の確認をお願いします。
 税務課 ☎ (56) 2223

軽にお越しください。中部会場については次のとおり。
日時 4月2日(金) 午前10時～
場所 静岡市役所静岡庁舎
内容 鑑定、価格、賃料、売買、借地、相続、贈与など土地に関すること
 ※申し込み不要。当日会場で受け付け。受け付けは午後3時30分まで。
【問】(社)静岡県不動産鑑定士協会 ☎054 (253) 6715 FAX054 (253) 6716

楽しく歩き楽しく学ぼう 交通安全ウォークラリー

交通安全協会島田地区支部
 交通事故の被害者の大半は歩行者です。ウォーキングを通じ参加者に交通规则とマナーの遵守を再確認してもらい、交通安全意識の高揚と浸透を図ります。
実施日 4月3日(土) 雨天中止
集合場所 大鉄日切駅
 午前9時から受け付け開始
持ち物 弁当、水筒
その他 参加無料。主催者負担で1日保険に加入します。
行程 日切駅→日切地蔵→道標→地藏堂→道銭場跡→詩碑・句碑・さんぼ茶屋→菊川坂石畳→金谷坂石畳→石畳茶屋(約10キロのコース)
【問】交通安全協会島田地区支部 ☎ (35) 7401

わたしが、世界が変わる JICA青年海外協力隊

(社)青年海外協力協会中部支部
 平成22年度春JICAボランティア「体験談&説明会」を4月1日(日)から5月17日(日)まで実施します。JICAボランティアは国際協力機構が実施する政府事業で世界の開発途上国で現地の人々と同じ生活をしながら、人づくり、国づくりに貢献する活動です。

心のコラム

「パパ、ちゃんと寝てる?」「2週間以上の不眠はうつサイン」「お医者さんに行かなくちゃ!」…。これらの言葉を聞いたことがありますか。これは静岡県が富士市をモデル地区に進めている睡眠キャンペーンのキャッチフレーズ。追い込まれて、自ら死を選んでいる人が多いといわれています。静岡県では、うつ病の人の多くが経験する睡眠障害に着目し、自死の減少を目指して睡眠キャンペーンを展開。うつ病の早期発見を目指しています。さて、本町では、「自死予防対策プロジェクトチーム」を立ち上げ、自死対策に力を入れています。この



川根本町自死予防対策プロジェクトチーム

取り組みは県内でも先進的な取り組みであり、各方面から注目を浴びているものです。わたしもオブザーバーとしてチームの打ち合わせに参加していますが、どうしたら自死を減らせるのか、さまざまな対策を試行錯誤しながら、毎回議論を交わしているのを見て、自死をなくしたいというメンバーの強い熱意を感じています。自死対策は、生きやすい、暮らしやすい地域づくりが基盤といわれます。地域づくりには住民一人一人の参加が不可欠です。あなたの周りの人が最近疲れているな、何か様子が変わった、と思ったら、ぜひ「眠れている?」と声をかけてください。ちょっとしたことで相談できる環境をつくること。安心して暮らせる地域への第一歩になると思います。宮地俊行 中部健康福祉センター障害福祉課 **【問】**いやしの里診療所 ☎ (59) 2102

くわしくは、次までお問い合わせください。 <http://www.jica.go.jp>

【問】(社)青年海外協力協会 ☎052 (459) 7229

さくら咲く季節 「徳山桜まつり」 3/27(土)～4/11(日)

【問】徳山区事務所 ☎ (57) 2843

徳山区では春の風物詩「桜まつり」を開催します。期間中の週末は地元物産店が軒を連ね、夜は商工会第5支部が設置する提灯のライトアップも企画しています。4月4日は「まつりの日」としてイベントを開催。町営サッカー場で、さまざまなアトラクションを予定しています。皆様のご来場をお待ちしています。



3月27日(土)～4月11日(日)
 (夜は提灯によるライトアップを実施)

イベント開催日 4月4日(日)
 午前10時～
 町営サッカー場

※雨天の場合は徳山コミュニティ防災センターで実施します。
 ※露店出店者を募集中です。くわしくは区事務所まで。

より良い品を より安く オザワマート

営業時間・午前9時～午後7時
 川根本町上長尾 ☎56-1108 FAX56-1109

平成22年3月13日(土)・14日(日)に交換できます。 11000ポイント引換券

1万円とこの券で11000ポイント販売いたします。千円分お得です。最高2万円まで販売します。この券を切り取ってお持ちください。 オザワマート

静岡県同一荒茶による仕上げ技術競技会 2年連続金賞受賞

迅速、丁寧に荒茶仕上げ加工～袋詰め承ります。お茶のことお気軽にご相談下さい

川根本町上岸110番地 新坂本園 TEL: 59-2155

墓石・燈籠・各種石材加工

藤田石材店

川根本町上長尾861-35 ☎・FAX0547-56-1177
<http://www.citydo.com/sp/0547-56-1177>

※()内は前月比、【 】内は外国人数、右欄は今月中の異動 ※外国人の数を含む

世帯数	3,077	世帯 (+5)	【45】	出生	2人	【0】
総人口	8,639	人 (-13)	【73】	死亡	9人	【0】
男性	4,222	人 (+4)	【20】	転入	14人	【10】
女性	4,417	人 (-7)	【53】	転出	10人	【0】

みんなで楽しく健康に「すこやか大学第3回学習会」

すこやか大学では、体の動かすことの素晴らしさを実感し、みんなで健康になろうと、1月中旬から2月上旬にかけて「健康体操」を実施しました。

小長井公民館では4人、藤川集会所では28人、山村開発センターでは27人の大学生が参加。童謡のリズムに合わせてゆっくりとしたペースで体を動かすことで、無理のない範囲で、またリラックスして体操に取り組みました。この教室を通して、日ごろから体を動かすことの大切さ、その気持ちよさを実感した様子です。



つれづれなるままに
編集後記

皆さんは普段、本を読みますか？わたしは月に4、5冊くらい読みます。主に小説。最近では海堂尊さんや石田衣良さん、宮部みゆきさんなどの本を特に好んで読みます。東野圭吾さんは昔から大好き。特にデビューしたてのころの作品が好きでした。

読書離れや活字離れが叫ばれていますが、なんのなんの、読書を楽しむ人の数は以前に比べて増えているようです。文部科学省が3年に1回実施する「社会教育調査」で日本全体を見てみると、図書館を利用する人の数、借りる冊数はともに伸びており、1人当たりの年間貸し出し冊数は平成19年時点で6億冊以上に。これは過去最高の記録だそうです。

いくら情報化が進んでも、便利なツールが身近にあふれていても、バックの中にはお気に入りの1冊。そんな生活をしたいですね。

小笠原聡

afterword

出生・婚姻・おくやみ
戸籍の窓辺

お誕生おめでとう

地区	氏名	性別	保護者
下長尾	辻森斗和依	男	宏行
久野脇	西原 瑠花	女	伊佐人

ご結婚おめでとう

地区	氏名	前住所
地名	鈴木 航	地名
	山口 瑞穂	掛川市

おくやみ申し上げます

地区	氏名	享年	届出人
小長井	芹澤清次	85	久代
柳三	鳥澤しま	97	俊夫
藤川	落合たか	98	清志
梅高	太田みつ江	91	正行
下泉	堀畑茂雄	85	かく
地名	杉本すわ	94	奎吾
徳山	山本みゑ子	85	清

■戸籍欄に掲載を希望されない場合は、届出時に窓口でお伝えください。

■前々月に届け出された出生・婚姻・死亡の届け出の内、本町に住所があり本町の窓口（本庁・総合支所）で受け付けた分のみ掲載しています。

生活健康課 ☎ (56) 2222

family registration

川根高等学校の「今」を紹介する
学校レポートズコラム

子どもに「学ぶ楽しさ」を伝えられるような教員になりたい

「養護教諭」と「教員」どちらを選ぶか

わたしは以前から、小さい子とかかわることが好だったので、高校に入学したころから「将来は教員になりたい」と思っていました。このため、教育学部がある4年制の大学に進学することを目標としていました。目標がはつきりしていたつもりだったので、進路について具体的に考えることや行動することはしていませんでした。

そんなある日、現代の日本では多くの子どもたちが不登校やいじめなどの問題を抱えていることを知り、そんな子たちとかかわり、援助できる「養護教諭」にも興味を持つようになりました。そして養護教諭と教員のどちらに進むべきか迷うようになりました。この迷いは、いつしか目標をあいまいにし、気がつくとも強や普段の生活が中途半端になっていました。気持ちだけが焦り、無理やりどちらかに決めても、心の底から納得はできず、また考え直すということを何回も繰り返しました。家族や先生にそのつど考

えていることを伝えては、すぐに考えが変わり、周囲も困惑させていました。

進路を決めた2つの体験

そんなわたしに進路を決定させたものは、職業体験とオープンキャンパスへの参加でした。2つの体験を通して、わたしは看護には向いていない自分を発見しました。この事実は辛いことではありませんが、自分の進むべき道をはっきり知ることができ、意味のあることだったと思います。わたしは色々考えた末、「教育学部」を進路先に選びました。さまざまな人と相談した結果、静岡大学の地域枠推薦を受けることにしました。小論文と面接が苦手なのに加え、試験の準備を始めるのが遅かったため、毎日のように先生方に指導していただきました。思うように表現がなかなかできず、たくさん苦労しました。合格を知ったときはとてもうれしかったです。

悩んだことが自分のプラスに

結局わたしは、入学したころの目標に

戻りました。でも、悩んだことは後悔していません。あのとき迷わなかったら、きっと進路について真剣に考えていなかったと思います。あやふやなまま進んでいたら、薄っぺらな気持ちのまま受験にのぞんでいたと思います。

安易に決めて考えることをやめてしまいうよりも、迷った方が自分の本当にやりたいことを見つけれられると感じました。わたしはこれから、4年間しっかりと学び、多くのことに挑戦していきたいです。そして将来、地元に戻って、子どもたちに「学ぶ楽しさ」を伝えられるような教員になりたいと思っています。

進路について悩んだことが、自分にとって大きなプラスになったと話す山口聖菜さん



川根高等学校 3年 山口聖菜

column

眼科患者さん無料送迎いたします。

ご近所から、当院まで送迎車にて無料送迎いたします。
ご予約は電話にてお願いします。
(当院に初めて受診される方もご利用いただけます)

島田眼科クリニック

住所：島田市日之出町3-9
島田駅から徒歩1分
☎0547-37-0431
診療時間：午前9時～12時、午後2時～6時
(休診日：水曜、第2・第4日曜日、祝日)

より良い品を より安く

オザワマート

11000ポイント交換は、平成22年3月13・14日です

- 土曜日・日曜日にオザワマートのプリペイドは1万円で10,600円に！ 600円お得です！
- 日曜日・月曜日に2,000円以上お買い上げのレシートで、木曜日にお得なサービスがあります

発端は飲み仲間の集まり

「もともと、飲み友達の集まりだったんだよ」。森照信会長が楽しげに話し始める。

地域の奉仕作業や年末のイベントを開催する「こんばんわ会」は、会員12人、千頭、小長井、徳山などの人で組織するまちづくり有志の会だ。飲み仲間だから、集まるのは当然夜。行きつけの店に、「こんばんは」と言いながら入ってくることから、会の名前が付いたという。

「あるとき会員が、ただ飲むだけじゃ面白くないから、何か始めようって言ったんです。それが18年前、会として具体的に動き出したのは、それからですよ」。

最初の活動は、千頭一又峡間の道路のカーブミラー磨きやゴミ拾い。かなり距離があるが、丸1日かけて実施した。「終わったあとに飲む一杯がまた最高だね。みんな、充実感を味わったんですよ」。

それから今年まで、年1回の遊歩道整備や年数回に分けての奉仕作業などを実施してきた。

「みんなね、いろいろ考えているんですよ。会員たちはそれぞれ、集まる前にあちこち下見してくるんです。あそこの歩道が古くなっているとか、雑草を払いたいかね。で、集まった席で『あれやるう、これやるう』っ

て。意見やアイデアがぼんぼん出てくる。こつちがまとめるのが大変なんだから」と、照信さんが笑いながらこぼした。

灯りで地域を照らす

そんな会員の意見から始まったのが『道しるべ灯』。千頭豊川稲荷別院の参道を中心に、和紙で作った灯り作品を10m間隔、距離500mに渡って展示。暗い夜道をほのかに照らし、道行く人の心を温めた。

灯りの展示は昨年末が2回目。徐々に地域に定着しつつあるという。「灯りのことを誰かに聞いて来てくれる人が増えました。また、『わたしたちも作品を飾りたい』と申し出てくれる人もいて、直前になって10基追加して展示したんです。中電さんも協力してくれて、今回は100基ほど並べることができました。地域の皆さんの評判も良く、『やってくれてうれいっけよ』って言ってもらえたんですよ。そういう声を聞くと、こつちもううれしくなる。またやるうって元気がわくんです」。

今年ホタルの時期にも灯り展示を実施したいと、目下検討中だそう。神田優一さんは「豊川稲荷の別院は全国に6カ所しかありません。言ってみれば地域の宝。大切にしていきたいですね」と話していた。

智者の丘へと続く遊歩道を整備し直したのもこんばんわ会だ。木製の

このまちの灯



何より「人」が財産 「おやじ力」が地域を明るく照らす こんばんわ会

会長：森照信

会員：森下初（千頭）、中村秀雄（徳山）、森道徳（千頭）、神田優一（千頭）、杉山寿一（平栗）、三浦秀司（家山）、神谷功（千頭）、風間広康（沢間）、梶山雅史（千頭）、榎田浩二（千頭）、井口晶彦（小長井）
事務局：井口晶彦 ☎（59）3776

階段が老朽化し、ところどころ土がえぐれて危なかった。それを見た会員が提案したという。作業は大変だったが、終わったあとの一杯がたまらないと、みんなで笑い合った。

何より人が財産

照信さんは言う。「こんばんわ会の財産は、何より『人』。土建屋もいればガス屋もいる。木の伐採のブロもいる。そんな人たちのやる気と行動力に支えられているんです。道しるべ灯りのときも、『テントが足りない』っていったら、どっから木を

持ってきて、あつという間に仮設テントをこさえちやう。これってすごいことですよ。しかも楽しみながらですからね。毎回、全員が参加できるわけではないけれど、来れる人である、次は俺も出るよ、みたいだね。そんな感じで、これからも楽しみながらやっていきたいですね」。

こんばんわ会の活動を知ってもらい、ほかの地区でも何かやってみようと思う人が増えたらうれいっけよ、会員たちは口を揃える。

「高齢化とか過疎化とか何かと暗い話題ばかりのご時世だけど、こんな

ときだからこそ、自分たちで何かやらなきゃ。盛り上げていかなきゃね。高郷で夏祭りをやる人たちも同じ気持ちだと思う。いずれ町のあちこちで、そんな風に盛り上がっていけば、そしてみんなできながっていけば、『元気な町』を実現できるんじゃないかな」。

会のみんなは、でかいことばかり言う、事務局の井口さんが笑いながら言う。「でも、実際やれちゃうんだから、すごい。みんなのパワーいつも感心させられるんですよ」。

こんばんわ会では、新たな遊歩道整備も企画中。さらに元気だ。参道を照らす灯りのように、まちを明るく照らし続ける。

今回（昨年末から今年の年始）の道しるべ灯は、昨年以上の人があったと会員たちは話していた。写真は千頭隧道で撮影



中川根 サッカー スポーツ 少年団



大会を通して交流が深まる

スポーツを通して青少年の健全育成を目指す少年サッカー大会「ジスカップ・増田晴雄杯」は2月14日、町営サッカー場で開かれ、県内各地から16チームが集結。勝利を目指し、熱戦が繰り上げられた。

本町から出場した中川根サッカー少年団（以下中川根）は1回戦、細江サッカー少年団と対戦。前半10分、細江のディフェンス陣がこぼしたボールを小林竜也くんがすかさずシュート、1点をもぎとった。後半、細江の猛攻を受けるも、鉄壁のディフェンスでゴールを死守、1対0で勝

利を手にした。

Aブロック決勝の相手は、神座小サッカー少年団。前半12分、神座小がコーナーキックから1点を先制する。しかしその3分後、藤田隼人くんのコーナーキックを小林竜也くんが押し込み同点に。前半を1対1で折り返す。後半開始早々、猛攻を見せる中川根。細かなパスで神座小を翻弄する。ラストパスを受けた八木司くんのシュートが神座小ゴールネットを揺らした。その後はどちらも決定力を欠き、2対1で試合終了。中川根はAブロック優勝、そして総合優勝に輝いた。

大会を通して、子どもたちの交流が深まったと、浜谷隆康代表は語る。「ジスカップは今年で13回目。子どもたちが、サッカーを通してぎすぎを深め合うのに最適な場です。毎年たくさんチームが本町を訪れてくれます。少子化の時代、うちの町ばかりではありません。参加したどの町でも、クラブを存続させるのが難しい時代となっています。中川根少年団は6年生が主体のクラブ。その6年生が3月で卒業を迎えるため、クラブの存続が危ぶまれていたんです。それでも今の3、4年生が熱心に練習していますので、何とか続けようと、保護者も含め頑張っているところです」。

技は磨くもの・心は創るもの

次世代の育成を目的とし



浜谷隆康代表（瀬平）

て取り組んでいるのが「キッズ」への指導だ。保育園児から小学1年生くらいの小さな子たちにサッカーを教えている。「月一回くらいのペースでキッズ向けの教室を開いています。サッカーというよりはサッカーボールを使った『遊び』の感覚ですね。人数はまだ少ないですが、小さいうちからスポーツ楽しみ、親しんで欲しいと思っています」。

子どもたちの可能性を広げたいと浜谷さんは言う。「ゆくゆくは総合スポーツクラブのような、何でもやるクラブへの移行も視野に入れています。子どもの可能性を広げてあげることがわたしたち大人の役目。小学生というのは、一番熱心に何でもやる時期だと思います。だからこそ、色々な体験をさせてあげたい。その中で子ども自身が自分に合ったものを見つけられたら、それが一番だと思うんです」。

浜谷さんが恩師から教わった言葉に『技は磨くもの。心は創るもの』という言葉がある。「技はサッカーの技術だけをいうわけではありません。仕事もスポーツも勉強も、人付き合いだって技の一つ。つまりは人間力を磨くということ。このジスカップの主旨そのものなんです。スポーツを通して、子どもたちがすこやかに育ってほしい。ただそれだけです」とほほ笑んだ。

小さなJリーガーたちは、まだボールを追いかけている。誰かが蹴ったボールが、空高く大きな弧を描いた。

川根茶業センターが「奥光」をプレゼント

本大会に出場するすべての子どもたちに、JA大井川農協川根茶業センターから「一煎茶バック」がプレゼントされた。茶どころ川根本町をアピールするとともに、お茶を飲んで元気になって欲しいという願いが込められている。贈られたのは天空の茶「奥光」の赤ラベル・黒ラベルの2種。写真は茶を受け取った中川根サッカー少年団の渡辺父母会長。



緑のふるさと協力隊員・千葉遥加の奮闘記

風ノハルカ

Chiba Haruka volume8

接岨の梅津神楽に参加しました

なんやかんやと忙しくしているうちに、1月が過ぎ去ってしまいました。

風ノハルカも残りあと1回。そろそろ「立つ鳥跡を濁さず」の準備をしなければなりません。

新年になってから、ありがたいことに夜に一人でぼーっとしていることが、ほとんどないです。

1月6日には、接岨の梅津神楽に参加させてもらうことが決まり、練習のため、ほぼ毎日接岨峡まで通っていました。

トンネルの多い真っ暗な道路を一人で運転するのは怖かったです。対向車がほとんどないことで逆に自由な運転ができて、慣れると楽しかったです。

タイヤもスタッドレスに替えたので、大寒波に見舞われて凍った道でもゆっくり行けば大丈夫でした。練習にいくと温泉に入れるという特典があったので、片道が長くてもやる気になりました。最初は「一つくらい舞ってみるか？」なんて言っていたのですが、練習が本番までに間に合いそうになかったため、途中で取り止めになって笛のみになりました。

一生懸命教えてくださったのに申し訳ないです。思っていたよりも舞は難しかったです。

笛は徳山での伝統芸能に鍛えられていたせいか、比較的楽に吹くことができました。

16日の本番は、開始が7時で終了は午前2時ごろになりました。

終わるころには眠くて疲れてへろへろでした。奥さんたちのバザーの料理や差し入れのおにぎりが美味しく、笛で使った体力を補給するのにすごく効きました。見学のお客さんもたくさん集まり、休憩時には機会がなくてなかなかお会いできなかった人と話すこともできて楽しかったです。

慰労会まで終わって、外に出たら車の窓ガラスが凍って真っ白でした。さすが本町最北端です。帰るには遅いからと泊めてもらったのに、翌日の片付けと神社への奉納には用事があって参加できずに残念でした。

温かく迎えてくださった梅地の皆さん、ありがとうございました。

千葉遥加（ちばはるか）

千葉県柏市出身 緑のふるさと協力隊員第16期生

緑のふるさと協力隊とは

特定非営利活動法人地球緑化センターが実施する、農山村に興味を持つ若者を、地方自治体に一年間派遣する事業。協力隊員たちは、農林畜産業など担い手が不足する第1次産業や、新しい刺激を求めている観光施設などで、隊員活動に励み、地域の活性化に貢献する。遥加さんは第16期生、川根本町3代目の隊員。

